

情報提供・国内連携

情報センター

情報の提供・発信に取り組む

情報センターは、国際文化交流に関する情報提供のため、国際交流専門誌『をちこち(遠近)』や年次報告書の発行、ウェブサイト、ブログ、メールマガジンなどによる情報発信事業、国内連携事業、JFサポーターズクラブの運営、国際交流基金賞や地球市民賞などの顕彰事業、情報発信拠点であるライブラリーとイベントスペースJFIC(Japan Foundation Information Center)の運営などを行っています。また、修学旅行生などの見学・訪問の受け入れも担っています。

隔月で発行される『をちこち(遠近)』は、日本で唯一の国際交流専門誌です。2008年度は交流年・周年事業のあったブラジル、インドネシア、英国の特集に加え、「翻訳がつくる日本語」「世界を結ぶアート」「世界の研究者が見つめるNIPPON」を特集テーマに取り上げ、22号から27号の6号を発行しました。

JFサポーターズクラブでは、ジャパンファウンデーションの活動を紹介し国際文化交流に親しんでいただくための、会員向けのイベントを開催しました。2008年度は、カナダのデザイン・エクスチェンジ代表サマンサ・サネッラ氏らの文化人による講演会、インドなどに派遣された篠笛奏者の狩野泰一氏によるトーク・コンサートなどを開催しました。また、会員に向けて『JFサポーターズクラブ通信』を発行しました。

国内連携事業としては、地域におけるさらなる国際文化交流を活性化するため、仙台市との共催で仙台クリエイティブ・フォーラムを開催し、イギリスの国際的なメディアアート・フェスティバルを事例に、地域に潜在するクリエイティブな人材の育成、海外への発信機能強化の可能性について討議しました。

地球を変える、地域を変える——地球市民賞

地球市民賞は、地域・コミュニティに根ざし、かつ先導的なモデルとなる国際文化交流活動を顕彰することを目的として、1985年に「国際交流基金地域交流振興賞」として創設され、2004年に「国際交流基金地球市民賞」と名称を改めました。これまで理事長特別表彰1団体を含め73件の個人ならびに団体が受賞されています。

2008年度受賞者

○ 特定非営利活動法人「S-AIR(エスエア)」

北海道札幌市で1999年の創立以来、世界27カ国より57名の若手芸術家などを受け入れ、地域に滞在して創作する活動の支援を実施。地



©S-AIR

域に世界のアートを紹介するとともに内外のアーティストとのネットワークを構築。

○ 特定非営利活動法人「大泉国際教育技術普及センター」

群馬県大泉町でブラジル人の子どもたちの健全な育成のため日本での生活に必要な言語、習慣、文化の習得支援とともにブラジル人と地域住民が相互に文化を教えあう事業などを実施。



◎大泉国際教育技術普及センター

○ スキヤキ・ミーツ・ザ・ワールド実行委員会

富山県南砺市でアジア、アフリカ、中南米の音楽と触れ合う機会である「スキヤキ・ミーツ・ザ・ワールド・フェスティバル」を毎年開催。地域を拠点に世界への



◎スキヤキ・ミーツ・ザ・ワールド実行委員会

発信を目指し、国際的な広がりのある文化活動を地域に根づかせている。

企業との連携をめざして

事業開発戦略室では、海外における日系企業の社会貢献活動と連携し、国際文化交流の推進を図っています。2008年度は前年度に調査した欧州(英・仏・独)、タイ、インド、メキシコの調査報告書を日本語と英語(または現地語)で作成するとともに、各国で報告会を実施し、日系企業との連携を深めました。

また、広報活動の一環として商品性を兼ね備えたJFグッズの開発を行っています。2008年度には、国内の学生公募により選ばれたデザインによる横浜トリエンナーレ2008記念「JFオリジナルふろしき」全3柄を製作しました。ふろしきは、トリエンナーレ会場や都内のミュージアムショップなどで販売するとともに、国内外のゲストや各種コンテストの賞品として無償頒布し、日本の生活雑貨の美しさ、ユニークさをアピールしました。



左：英・仏・独における日系企業の社会貢献活動に関する調査報告書(2008年8月刊行)
右：JFオリジナルふろしき
(左右ともJFICショップにて販売中)

国際交流共同研究センター

国際交流の発展に貢献

ジャパンファウンデーションは、青山学院大学との連携・協力により、2008年4月、同大学の間島記念館内に「国際交流共同研究センター (Joint Research Institute for International Peace and Culture)」を創設しました。

同センターは、国際交流についての研究、国際交流活動の分析、評価ならびに国際交流技法の開発などの研究を実施し、その研究成果を広く社会に還元することにより、国際交流の発展に寄与することを目的としています。センターの事業は次のとおりです。

①国際交流に関する理論および政策の研究

②国際交流についての教育

③国際交流関連データの収集および整理

④研究紀要の発行

⑤国内外の国際交流に係る研究を行う各機関との交流

初年度の2008年度には、研究プロジェクトとして、「平和のための文化イニシアティブの役割」「地域活性化と国際交流」および「国際文化機関の比較研究」を実施し、関連する研究会・シンポジウムや連続ランチタイム・セミナーなどを開催しました。また、研究成果として『平和の為の文化イニシアティブの役割(中間研究報告)』、紀要『Peace and Culture』などを発行しました。詳細はウェブサイトをご覧ください。

URL : <http://www.jripec-aoyama.jp>

京都支部

関西地域の担い手との連携とネットワーク構築を推進

ジャパンファウンデーション発足と同時に国内唯一の支部として開設された京都支部は、関西地域における国際交流のさまざまな担い手とのネットワークの構築に取り組みつつ、事業を進めてきました。

能・狂言などの舞台公演、日本映画の上映会などを通して、海外からの留学生や外国人の方々に日本の文化に触れていただく機会を提供するとともに、国際交流基金が招へいする研究者(フェロー)による講演会、セミナー、懇談会などを通じて、国際交流に関心をもつ市民との対話や交流の場を設けています。

2008年度にはフェローセミナーを関西地区で5回実施したほか、1973年から恒例の催しである「国際交流の夕べ——能と狂言の会」(京都観世会館)を実施しました。

京都支部は2009年2月23日に京都市左京区の京都市国際交流会館へ移転し、新しい事務所で事業を開始しました。移転を機に、自治体、文化・芸術・学術分野のさまざまな機関、団体との連携を強化し、新規事業の推進を図っていきます。



国際交流の夕べ